

# 認定こども園ともいき 令和2年度自己評価結果公表シート

## 1 本園の教育目標

- |              |
|--------------|
| 1 心豊かな子ども    |
| 2 明るい子ども     |
| 3 進んで行動する子ども |

## 2 本年度、重点的に取り組む項目

<p>認定こども園ともいきの求める職員の人物像は、次の3つである。</p> <p>(1) 和顔愛語 すてきな笑顔と気持ちのいい挨拶をする人</p> <p>(2) 同事協力 職場の人と息を合わせて仕事をする人</p> <p>(3) 智慧希望 素直に人の意見や物事を受け入れ、よく考えて積極的に仕事をする人</p> <p>これらを実現するために、まずは人間性の基礎となる笑顔と挨拶を徹底できるよう組織的に取り組んでいくことを重点事項とする。</p>
--

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

認定こども園教育保育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・方針に従い指導計画を作成する。	主体性を重視し、子どもの実状に合わせた活動が展開された。教育保育要領や園の理念等の理解、これに基づいた指導計画の作成と反省がやや不十分。
教育の質を高めるため、研修を充実させる。	当初はコロナ禍により外部の研修会の参加ができない状況であったが、開催団体の開催方法の多様化や園内のリモート設備の整備により、多くの保育者が研修を受けることが出来た。園内研修については、学年毎にテーマを設けることによりそれぞれが主体的に取り組むことが出来た。職員間の協力が円滑な体制が出来ればさらなる向上が見込める。評価の低いものは、理念等の理解、マニュアル活用、外部連携。
園児の良さを認め評価する	園児一人ひとりの関わりや読み取りを意識できた。総合的な視点、複数の視点を更に活かした保育を行いたい。職員体制、勤務体制に余裕を持てると良い。
園の情報を発信する	クラスだよりは定期的に発行され保護者にコンスタントに情報が提供された。また、ブログの掲載内容を見直し保育者が作成に関わるようにし、より保育の内容が伝わるものにした。更新回数も増やした。(ただし、子育て意欲の向上に繋がっているという実感は薄い)
園環境を整える	新型コロナ対策の機器や物資を充実させた。また、運動不足にならないための遊具も新たに購入した。自然環境の維持と充実は引き続き力を入れている。多様な園児が主体的に活動できる環境を目指したい。施設設備の老朽化も部分的ではあるが散見される。

#### 4 認定こども園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

概ね目標等に向け意識して取り組むことが出来た。また、全体的に昨年度よりも若干自己評価が上昇した。

しかし各項目の評価得点の傾向が変わっておらず低い評価の項目は相対的に低いままであり、依然改善が必要である。

#### 5 今後取り組むべき課題

社会情勢に対応した運営	コロナ禍の中で、教育保育の質と安心安全を両立。 これまでの業務の見直す機会でもある。
職員間の連携体制	無理なく余裕を持った人員体制で振り返りや研修の機会を確保していきたい。 業務を協力して行い円滑化を図りたい。
各所の更新や修繕	建物設備の老朽化した部分の修繕。 痛んだ玩具や絵本の更新。

#### 6 認定こども園関係者の評価

全体的に高く評価できる。

特に評価した点として、和顔愛語の取組、保護者の満足度、コロナ社会に合わせた保育や業務など。

検討事項としては次のものを挙げた。  
情報化時代に対応した守秘義務、職員の交流と連携、玩具や絵本の整備など。